

白木屋文書
A 1
22

表題	内容	年代	摘要
源印一件ニ付一統へ申入書	店の者への注意書	文化十二年六月（一八一五）	
		数量	

東京大学経済学部

東大・経済
白木屋文書
A 1
22

源印一件ニ付一統へ申入書
 店の者への注意書
 文化十二年六月（一八一五）
 数量

[illegible]

下へ去つた。此の行状は、竹田の一行が、
 當又いつか不行きあつた、者たゞ之いふ付
 まへ、此の行状は、但し此の行状を、爲す
 事、人々を、此の行状、此の行状、此の
 行状、此の行状、此の行状、此の行状、
 此の行状、此の行状、此の行状、此の

本年同世話

[illegible]

小孩
要示ハ是ノ頃

一、
二、

沈氏

一花三友之譜教ふ人号す

表二カ所の出に糸は、物の
通目く糸腰一、二寸、糸は
二、三寸、糸は、糸は、糸は、

一石渠宜使肉即去卻以遠
中一始後約法字多符一府中
平好勝之已不不於時之史也如
為之

10-18-67

The end of the world

7月14日 小田原 小田原

一花より百華の二治教なるを
市より集りて

表二カ所下の土に糸はあ
る月く糸をくしきや
いかにあふふ糸の糸

一石匠を使内やま都ら遠
くし始修約の土より糸中
千石匠をくしきくすくすくす

一糸匠をくしきくすくすくす
糸匠をくしきくすくすくす
糸匠をくしきくすくすくす
糸匠をくしきくすくすくす

糸匠をくしきくすくすくす
糸匠をくしきくすくすくす
糸匠をくしきくすくすくす
糸匠をくしきくすくすくす

一糸匠をくしきくすくすくす
糸匠をくしきくすくすくす
糸匠をくしきくすくすくす
糸匠をくしきくすくすくす

今更に中は井上と云ふ
一、ある所より、
いふ、ある所より

今更に中は井上と云ふ
一、ある所より、
いふ、ある所より

今更に中は井上と云ふ
一、ある所より、
いふ、ある所より

今更に中は井上と云ふ
一、ある所より、
いふ、ある所より

今更に中は井上と云ふ
一、ある所より、
いふ、ある所より

市子...
...

一物...
...

一物...
...

...

一他...
...

一春...
...

一...
...

...

...

一...

おれは世に生れしは
おれは世に生れしは
おれは世に生れしは
おれは世に生れしは

一、おれは世に生れしは
おれは世に生れしは
おれは世に生れしは
おれは世に生れしは

一、おれは世に生れしは
おれは世に生れしは
おれは世に生れしは
おれは世に生れしは

おれは世に生れしは
おれは世に生れしは
おれは世に生れしは
おれは世に生れしは

一、おれは世に生れしは
おれは世に生れしは
おれは世に生れしは
おれは世に生れしは

一、おれは世に生れしは
おれは世に生れしは
おれは世に生れしは
おれは世に生れしは

[Handwritten signature]

有如一石以不水海大切之得之
 以信為重之信改之為改

因事之成否之速、以決其成否之席
の速否の成否の速否を別とす
應知、不

凡々傷仙も傷木も下なる所なり
つらむと云ふもいふもいふもいふも

奥之邊に病氣を引籠りて仰又二條御所
へ移り上りてより刻御座り候なり
今移御通し唐勤と云ふなり

二階のよりより又に通る處に行合ふ所
をよみせられし所傳をよみけりお改
めはなかり

[illegible]

諸人亦如
張有題

敬ハ徳と申し

古事類聚

是と水席内
上の座う
りあけり
世よ一
人う

二 子孫の徳と節

一人の只情と臨終の肝氣をうける終
 思ひに到り別る是を由に云ふに云ふ
 今のまゝでもいふ人々の方のまゝ
 成行作らう者く市々の筆利
 鑑まゝやうやうあふふいふはこれ
 うゑやうやうまゝの銘文に云ふ
 云やうやう更なる遠方なる
 云々云々何れもそれなり
 後悔ありやうに云ふは云々

4

[illegible][illegible]

一法有餘也中出一以之為行也
 乃以之為物也為者有之也
 有者有之也自今而後
 乃以之為物也為者有之也
 有者有之也自今而後

市街より河川沿ひに
 二カ所ありて所々
 古く出入りたる所
 ありて今も

一、實用之技術の普及を
爲すに當りては、科學者（名臣）
が第一である。

け末のりきしきふんて科
や、下一をづくはにふん

おのれはふたたびの世に生れぬことを
おぼしめし涙を流す

あるは世に生れぬことを

一、世に生れぬことを
おぼしめし涙を流す

一、世に生れぬことを
おぼしめし涙を流す

一、世に生れぬことを
おぼしめし涙を流す

一、世に生れぬことを
おぼしめし涙を流す

一、世に生れぬことを
おぼしめし涙を流す

一、世に生れぬことを
おぼしめし涙を流す

一、世に生れぬことを
おぼしめし涙を流す

一、世に生れぬことを
おぼしめし涙を流す

あるは世に生れぬことを
おぼしめし涙を流す

一、世に生れぬことを
おぼしめし涙を流す

一

10

一



1

六月中旬